



NIPPON KOEI

RECRUITING GUIDE

<https://www.n-koei.co.jp/>



電力事業本部 パワー&デジタル ビジネスユニット

採用に関するお問い合わせ先

本社

人事部 採用担当 TEL:03-3238-8035
〒102-8539 東京都千代田区麹町5-4
E-mail:personnel@n-koei.co.jp

電力事業本部 パワー&デジタル ビジネスユニット

業務部担当 TEL:0248-72-5121
〒962-8508 福島県須賀川市森宿字道久1-22
E-mail:nkf-adm@ex.n-koei.co.jp

私たちのものづくりは 安心安全な社会づくりに 貢献しています。

時には作った
製品を海外に輸出し、
取り付けに行くことも!



水が電気へと変わり、各家庭に送られるまでに必要な設備や装置。それらを作るのが、私たち日本工営 電力事業本部 パワー&デジタル ビジネスユニットが担う役割です。ダムや鉄道の防災における各種装置・システムも手掛け、近年では、需要が高まる再生可能エネルギーの活用など、電力事業に関わるあらゆる現場のニーズにお応えしています。プロダクトマップは私たちが作る製品の一例にすぎません。一つ一つ地域・社会のニーズに合わせたものづくりを行うことは、きっとエンジニアとしてのやりがいを感じるでしょう。私たちの手がけた製品は、安心安全な社会に不可欠なものばかり。進化する先端技術を活用し、私たちは成長を続けます。

プロダクト紹介

01 ダム



ダム監視制御システム

複数のダムをネットワーク接続し、遠方から監視(管理)・制御する。



ダム放流警報装置

各警報局へのサイレン、スピーカーへの吹鳴指令を瞬時に発する装置。

02 水力発電所



水車

立地環境に合った高効率な水車をオーダーメイドで製作。



制御装置

水車の回転数や発電機の電圧などを制御する他、緊急時に自動で停止させる制御装置。



発電機

巨大な機械でも、人の手による作業が重要な発電機。設計・製作期間は2年におよぶことも。

03 変電所(監視制御システム)



インターフェース盤

制御装置と変電設備を中継する装置。



遠方監視制御装置

インターフェース盤と集中監視制御システムの中継装置。上位からの遠方監視・制御が可能。



縮小型監視制御盤

各種変電設備の状態を監視・制御し、直接操作を行う事も可能。

04 制御所



集中監視制御システム

無人化された複数の変電所(平均25箇所)を遠方から監視・制御する。

05 鉄道



落石検知装置/
土砂崩壊検知装置

落石・土砂崩壊を検知し、電車に知らせる防災システム。

06 変電所(変圧器の付属機器)



コンサベータ

変圧器絶縁油を大気から遮断し、絶縁油の劣化を抑制する機器。



オイルレス
ブリーザ

コンサベータや変圧器、絶縁油タンク等の吸湿を抑制する機器。



活線浄油機

変圧器絶縁油中の水分・カーボンを除去し、絶縁油の劣化を抑制する機器。



ライントラップ

電力線に直列に挿入し、電力線搬送における伝送路の損失軽減・伝送特性の安定および伝送路の混信を防止する機器。

07 地下変電所



冷却塔

変圧器の熱を下げる機械。地下変電所の場合はビルの上に設置。

08 再生可能エネルギー



4MW蓄電池(左)
蓄電池制御システム(右)

電気事業者や需要家の電力ニーズに応じて蓄電池を制御するシステム



太陽光サイネージ表示

複数の発電所を集中監視するクラウド型のモニタリングサービス

All of one project.

電力事業に関わる研究開発から、
設計、製造、検査、施工管理、保守・メンテナンスに
至るまで、一貫した体制と高い技術力で
社会のインフラを支える「ものづくり集団」、
それが日本工営です。

01

技術営業

近年では海外市場開拓も

お客様は主に電力会社や自治体の企業局など。
その多くが入札案件ですが、仕様書を踏まえつつ
「高品質かつ高スペックの実現」をPRし契約につ
なげています。既存のお客様には、よりコストパ
フォーマンスの良い後継製品のご提案や、近年で
は海外での市場開拓も積極的に行っています。
また、お客様からの技術的な問い合わせにもお答
えています。

02

研究開発

新しい仕組みを
自分の手で生み出す

機器や部品などの「ハード」と、機器の動きを制御
する「ソフト」の2領域で、「こういう性能が欲しい」と
いった「お客様からのニーズを受けての開発」や、
今後柱となる再生可能エネルギー事業を支える
「新規開発」などを行っています。ときに試行錯誤を
繰り返す地道さも必要ですが、その先にはかつてな
い仕組みを作り出す達成感が待っています。

03

設計

最新技術が詰まった
ハード・ソフトの世界

お客様からの仕様書に基づいて、機器のハード
設計から、制御装置・システムのソフト設計を行
います。環境に配慮した最適な構造・機能を考
え、ときにコストダウンを念頭に図面に落とし込ん
でいきます。自身で設計した機器やシステムが完
成し、無事に稼働できた時に大きな醍醐味を感じ
ることができます。

04

製造

「精度」と「スピード」の両輪で

一品一品お客様の仕様が異なるため、当社の工
場にライン作業はありません。盤・システム関係製
品については、機器内の細かい配線作業も行っ
ています。水車・発電機などは0.01mm単位の精
度で加工・組立を行っています。わずかな誤差が
後工程で大きなアンマッチを生むことも少なくあり
ません。一つひとつ素早く、丁寧に、確実に、そして
安全第一で作業を行います。自分たちの手から製
品が生まれる感動を味わえる仕事です。

05

検査

高品質が信頼に

寸法は図面通りか、外觀に傷はないか、機能に問
題はないか。製造過程でも検査は実施しますが、
出荷前の最終チェックを担う責任重大なボジショ
ンです。製品の素材や仕組み、構造、機能を把握
した上での磁力や超音波などを用いた検査から、
変電所・ダムを模擬して行う検査まで様々です。万
が一見逃しがあると、信用問題にも関わるため、気
を引き締めつつ常に製品と対峙しています。

06

施工管理

現場力とコミュニケーションが
安全作業に

各種装置の新設・修理工事が滞りなく行われるか
を管理します。予算と工期は決まっているため、それ
を踏まえつつ作業のタスク出しやスタッフの配置、
工程期間を細かく割り出し、指示します。ときに山奥
での作業となるため、製品を搬入する経路の確保
なども重要なポイント。「速やかかつ安全に」を念頭
に、作業に当たっています。

07

保守

生活インフラに直接携わる

納品・稼働開始後の機器類の保守メンテナンスを
行います。とはいえ通常は数十年はメンテナンスフ
リーで使用できるものがほとんど。そのため技術革
新に伴う新システム対応機器への入れ替えや台
数追加などが主な業務となります。ここは安定して
電力を供給するためのいわば「要所」。そこに携わ
るやりがいを感じています。





誠意をもって
ことにあたり、
技術を軸に
社会に貢献する。



角和
英年

1991年4月入社
神奈川県出身
神奈川工科大学工学部機械工学科出身
2012年取得：技術士
(機械部門/動力エネルギー分野)

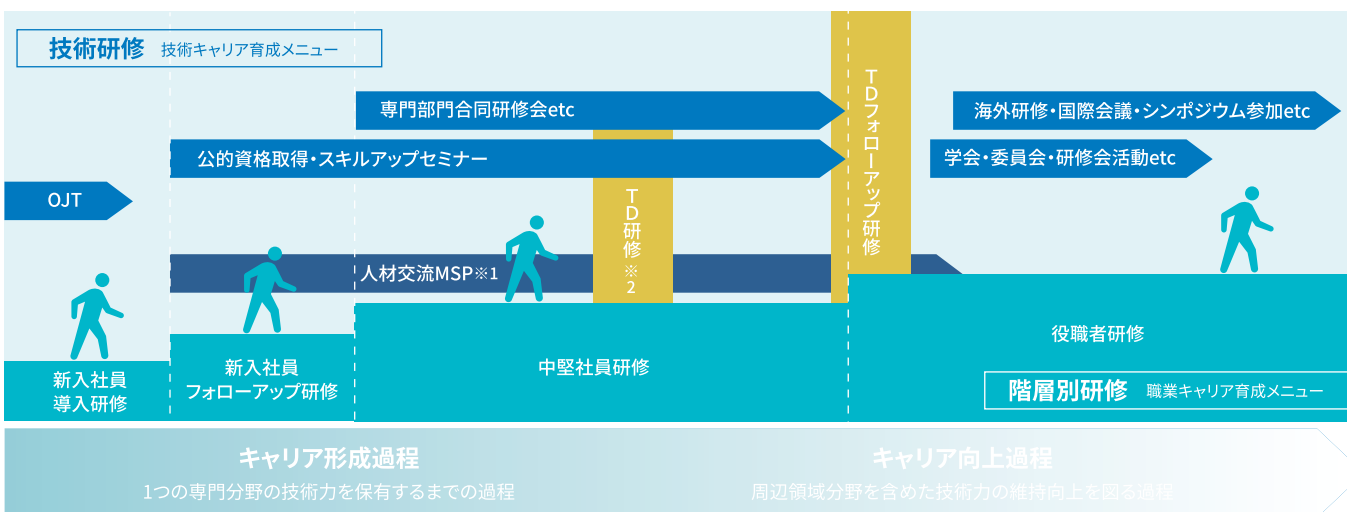
キャリアアップ支援について

当社ではキャリアアップの要件として、国家資格である「技術士」の取得を重要視しています。年間の合格率が15%程度という狭き門ではありますが、当社では筆記試験対策としての模擬試験や、口頭試験対策のための模擬面接などを実施し、合格のためのサポートを手厚く行っています。

● 育成について

私が若手にいつも伝えているのは「仕事は段取り八分」、そして「まずは自分で決めてみる」ということ。急いでいるときほど「取り掛かってから考える」ということをしがちですが、その場合、「何をいつまでにやるか」「どこがポイントか」など、視野が狭くなり、結果後戻りしてしまうことも多いものです。また行き詰ったとき「どうしよう？」と人に訊ねてばかりいると、いつまでも自己解決力が育ちません。まずは準備をしっかりと、どんな道筋を進めるかを決め、それに沿って一旦最後まで作り上げる。その後改善点を洗い出し、修正していくという手法を大切にしようという指導をしています。また情報過多に陥ると方針に迷いがち。そのときは思い切って一度ははじめに戻りましょう。「次に何をすべきか」が改めて見えてくるはずです。

教育研修制度



※1 「人材交流MSP (Multi Seed Program)」 一定期間、現在は別の部署に在籍することにより、応用範囲が広く事業環境の変化に対応可能な、プロフェッショナルの育成を図る人事制度
※2 「TD (Technical Development) 研修」 当社独自の技術の共有と継承を図る実践研修

角和さんのキャリアステップ

● 1991年~機電プラント部

水車発電機を作る部署で水車の設計を担当していました。「設計」は工程の最上流であるため、私たちが遅れば製造のスタートそのものが遅れてしまいます。また図面が間違っていると現地で「寸法が合わない」というトラブルも。「締切り厳守」、そして「正確さとスピード感の両立」の大切さをここで学びました。

● 2000年~技術部→エネルギー事業推進室

技術部としては当時の円高傾向を反映し「水車を海外調達する」という案件を担当していました。調達先はフランスがメイン。それまでは自社製品しか見たことがなかったのですが、初めて海外製の水車にふれ「同じ用途なのに思想が全く違う」とカルチャーショックを受けたことを覚えています。後にエネルギー事業推進室へと移籍。当時の原油価格の下落を受け、「ディーゼル発電のワンストップサービス」という新規事業へとシフトしました。

● 2002年~パワーソリューション部(その後「機電システム部」に名称変更)

その後、水車設計の部門へ戻った私は、2012年に課長に就任。2015年には次長に就任いたしました。

● 2018年7月~水カプラント計画室(室長)

現在は水力発電所の計画に対し、営業部門と製造部門の仲立ちをする部署をとりまとめています。具体的には営業からの仕様や予算に関する情報と、製造からの実現性や価格に対する情報とをすりあわせて見積り様書を作ります。さらに2019年9月からは海外サプライチェーンからの原料調達先や海外における製造拠点構築の検討もスタートしました。

※サプライチェーンとは、製品の原材料・部品の調達から、製造、在庫管理、配送、販売、消費までの全体の一流の流れ

日本工営のワークライフバランス

働きやすい環境への取り組み

良質な仕事は健康な身体があってこそ。当社では健やかに働くための環境づくりへ積極的に取り組んでいます。仕事へのモチベーションを養うべくオン・オフを切り替え、プライベートもしっかりと充実させてください。

具体的には

- 有給休暇取得促進日を年間7日以上設定
- 連続10日の夏休み取得の奨励
- 原則、毎週水曜日は「ノー残業デー」
- 10~15日のリフレッシュ休暇の奨励
- 食堂・カフェテリア・休憩室など社員の憩いの場を設置
- 社宅・寮制度
- フレックスタイム制度
- 財形貯蓄制度 など



食堂

カフェ

自己成長支援

当社では社員一人ひとりの向上心を大切にしています。「こんな領域でスキルアップしたい」「資格を取得すれば業務に生かせそう」「このジャンルをもっと深めたい」といった個人のやる気を支援する体制を整えています。

具体的には

- 200以上のコースから選ぶ自己研鑽教育支援
- 階層別・役職別研修制度
- 各種技術研修セミナー
- 論文・講演奨励金制度 など



子育てと仕事の両立

働き盛りは同時に、「子育て世代」でもあります。子育て中はそれまでになかった様々なライフイベントが起き、誰もが仕事との両立に苦労するもの。当社ではそんな子育て社員のサポートするための制度を整備しています。

具体的には

- 育児休業制度(3歳までに最長18カ月)
- 子どもの看護休暇制度(子どもが2人の場合10日まで)
- 育児短時間勤務制度(小学校卒業まで)
- 育児特別休暇制度(1歳半まで最大連続10日まで有給取得可)
- 妻の出産時休暇制度 など

